

# ふるさと探訪

## 第34回 実報寺



歴史を物語る俊盛筆の  
聖帝山来由記 ▲

実報寺の境内に咲く満開の  
一樹桜 (昨年3月28日撮影) ◀

普段は見ることのできない  
木造地藏菩薩立像 ▶

実報寺は、西暦640年舒明天皇が道後温泉に湯治の帰途、勅願により建立されました。開山は惠隠法師で、722年には行基、815年には空海も来山したと伝えられています。実報寺には、3つの市指定文化財があります。

一つ目は「木造地藏菩薩立像」で、高さ約3メートルの大作です。腰のあたりには絵の具の跡もあり、昔は極彩色で描かれていたことを思わせます。厨子の扉は33年に一度のお開帳法要の時にしか開かれないため、普段はこの像を見ることができません。

二つ目は「俊盛筆聖帝山来由記」で、貞観10(868)年に第11代住職俊盛上人が寺の縁起を記した巻物です。

三つ目は「一樹桜」で、この桜は旧境内の桜坊というところに植えられていた桜であると伝えられています。この桜の挿し木が、東京の森林総合研究所多摩科学園に全国の桜の名木60本の一つとして保存されています。染井吉野より早く咲くこの桜は、例年3月下旬には満開となります。

■住所 実報寺甲758

TEL 0898-66-5468

■駐車場 あり(無料)

